





テーマ展 展示室1

5/17 (金) ～ 6/18 (火)

茶壺 — 武家の美意識 —

茶壺は、茶の湯の葉茶を入れる容器です。その堂々たる姿から、織田信長や豊臣秀吉をはじめとする武将達に愛され、書院飾りの雄とも言うべき存在とされました。江戸時代に入ってから、大名家の格式を示す道具として尊ばれ、重用されました。

本展では、井伊家伝来の茶壺の優品を一堂に展示し、併せて、御用茶師の御茶入日記や茶壺斡旋の際に送られた書状など、茶壺に関わるさまざまな資料を紹介し、その収集と賞翫の歴史をひもときます。



褐釉四耳壺

関連講座

- 演題 「井伊家伝来の茶壺」
- 日時 6月1日(土) 14時～15時30分
- 講師 奥田晶子(当館学芸員)
- 会場 当館講堂
- 資料代 100円
- 定員 50名(先着順、13時30分から受付)

企画展 展示室1

6/21 (金) ～ 7/23 (火)

青根九江 — 京で花開いた彦根の文人画家 —

青根九江(一八〇五～五四)は、文化二年(一八〇五)、彦根城下の下木屋町の茶商の家に生まれました。名は介、字は石夫、九江と号しました。

その時期は定かではありませんが、九江は、京に出て山本梅逸(二七八三～一八五六)のもとで画を学びました。梅逸は、京で名を馳せていた名古屋出身の画家です。この師とともに九江は、京の文化人名録である『平安人物志』の「文人画」の項に掲載されており、当時、文人画家として知られた存在であったことが分かります。九江画の多くには、画中に詩文が書かれており、ここから彼の確かな文人意識を読み取ることが出来ます。

本展は、青根九江にスポットをあてる初の展覧会です。京の文人達との交流だけでなく、地元彦根の人々との交流の様子もうかがえます。

関連事業

① ギャラリートーク

- 日時 6月22日(土) 14時～(30分程度)
- 講師 高木文恵(当館学芸員)
- 会場 当館展示室1
- \*参加には観覧料が必要



② 講演会 「青根九江—京都画壇での活躍—」

- 日時 7月6日(土) 14時～15時30分
- 講師 高木文恵(当館学芸員)
- 会場 当館講堂
- 資料代 100円
- (ただし、彦根市内在住の中学生以下は無料)
- 定員 50名
- (先着順、13時30分から受付)



山水図 青根九江画 貫名松翁賛



梅図 青根九江筆



花鳥図 青根九江筆(部分、個人蔵)

テーマ展

展示室1・2

7/26 (金) ~ 8/28 (水)

### 井伊の赤備え

—勇猛なる軍団—

徳川の重臣として武勇で聞こえた井伊家。この部隊は、藩主以下家臣に至るまで甲冑や旗指物などが朱色で統一され、「井伊の赤備え」と呼ばれました。

本展では、関ヶ原合戦や大坂の陣などで活躍した初代直政、二代直孝をはじめとする藩主や家臣の武器・武具類などが一堂に会します。時代を超えて赤備えの雄姿が今、よみがえります。

朱漆塗仏二枚胴具足



朱地井桁紋旗印

### ○ギャラリートーク○

■日時 7月27日(土) 14時~(40分程度)

■講師 今中啓太(当館学芸員)

■会場 当館展示室1・2

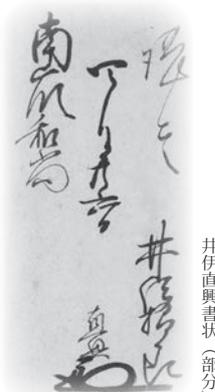
\*参加には観覧料が必要

企画展

展示室1

8/31 (土) ~ 9/29 (日)

### 井伊直興と永源寺南嶺慧詢



井伊直興書状(部分)

彦根藩井伊家四代直興(一六五六~一七一七)は、後の彦根藩政の基礎となる政策をいくつも実施し、幕府の大老職を勤めたことでも知られる人物です。直興は自身を臨済宗の名刹・永源寺へ葬送するように遺言するなど、歴代の井伊家当主の中でも仏教をあつく信仰しました。そのなかで、深く帰依した人物が南嶺慧詢(一六二九~一七二四)です。南嶺

は、永源寺で住持を勤めた後、永源寺の末寺・松雲寺の住持として同寺を再興し、直興の息子・千代介に授戒するなど、直興と親交を結びました。本展は、二人の人物像や交流関係、直興の仏教信仰の具体的な様子を紹介するとともに、直興の仏教信仰が彼の政治に与えた影響にも迫ろうとするものです。



井伊直興画像(部分、永源寺蔵)



南嶺慧詢頂相(部分、松雲寺蔵)

### 関連事業

①ギャラリートーク

■日時 8月31日(土) 14時~(30分程度)

■講師 北野智也(当館学芸員)

■会場 当館展示室1

\*参加には観覧料が必要

②講演会

「井伊直興と永源寺南嶺慧詢

—南嶺宛て直興書状を読み解く—」

■日時 9月14日(土) 14時~15時30分

■講師 北野智也(当館学芸員)

■会場 当館講堂

■資料代 1000円

(ただし、彦根市内在住の中学生以下は無料)

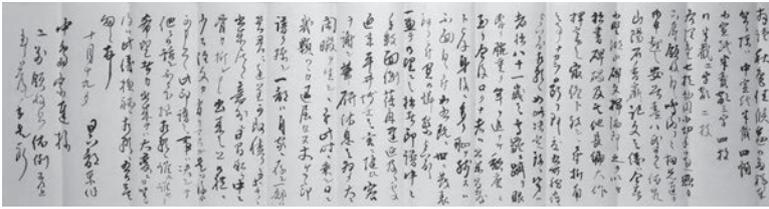
■定員 50名

(先着順、13時30分から受付)

### 新収蔵資料 日下部鳴鶴直筆書簡

令和六年三月、近代日本の代表的な書家・日下部鳴鶴（一八三八～一九二二）直筆の書簡四点が新たに当館の収蔵品に加まりました。鳴鶴は、彦根藩士の出身で、新政府の書記官を勤めました。四十二歳の時に書の道一筋に生きること  
を決意して官を辞し、その後、力強く韻の高い中国・漢魏六朝時代の書を基盤とする自身の書風を確立するまでに至った人物です。深い学識に裏付けられた格調高い彼の書は、広く世に受け入れられました。

新たに館蔵品となった書簡は、いずれも鳴鶴が八十～八十一歳の時のもので、彦根在住の元彦根藩医・中



日下部鳴鶴書簡

島宗達（一八四〇～？）に宛てたものです。書簡からは、鳴鶴が手製の印譜（印影を集めたもの）を特別に宗達だけに贈ろうとする様子など、二人のとりわけ親密な間柄を垣間見ることができるとも、宗達が仲介した揮毫の依頼によつて多忙を極める鳴鶴の様子も知ることが出来ます。さらに、これら書簡には、鳴鶴が私淑していた貫名松翁（一七七八～一八六三）の書を宗達から見せてもらった際に感じた、松翁の書への並々ならぬ思いをはじめ、体力の衰えに苦しみながらも直向きに揮毫を続けることへの思いも綴られています。これまで知られてこなかった鳴鶴最晩年の様子や彼の書への思い、また彦根の地で果たした文化的役割をも知ることが出来る、鳴鶴研究の一級資料です。

日下部鳴鶴直筆の書簡四点は、特集展示「近代日本の書聖 日下部鳴鶴―鳴鶴書簡新収蔵記念―」で6月17日（月）まで、他の鳴鶴作品とあわせて展示しています。

### 講座

#### ◎ シリーズ 古文書から読み解く彦根の歴史 ◎

本講座では、彦根藩井伊家文書など、当館所蔵の古文書を読み解き、彦根の歴史についてわかりやすく紹介いたします。彦根の歴史について、一から学びたい方におすすめの講座です。

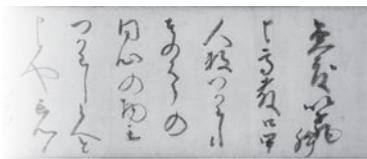
#### ■ 日時・演題・講師

① 6月15日（土） 14時～15時30分

「徳川家康からの手紙」

渡辺恒二（当館学芸員）

徳川家康の家臣として、江戸幕府の創設に大きな功績をあげ、「開国の元勳」と賞賛された井伊直政。家康から直政に宛てられた手紙を読み、二人の関係を明らかにします。



徳川家康自筆書状（部分）

② 8月11日（日・祝） 14時～15時30分

「彦根藩士の履歴書」

「侍 中由緒帳」を読む  
柴崎謙信（当館学芸員）

彦根藩士の由緒・経歴を記した「侍中由緒帳」は、元禄四年（二六九二）の編纂開始から廃藩まで書き継がれました。彦根藩士の多彩な事績を通して、彦根藩の歴史をひもときます。



侍中由緒帳

③ 11月3日（日・祝） 14時～15時30分

「彦根城と城下町」

荒田雄市（当館学芸員）

江戸時代の初め、彦根山に城が築かれ、城下町も短期間で建設されました。築城や石垣修復等の城の維持管理、城下町の成り立ちについて、古文書や絵図を読み解き紹介します。



御城内御絵図

- 場所 当館講堂
- 資料代 各100円  
(ただし、彦根市内在住の中学生以下は無料)
- 受付 当日受付  
(受付開始13時30分)
- 定員 各50名(先着順)

# 金亀玉鶴



## 「暮物伺」

### 彦根藩の人事考課制度

井伊家四代直興は、平時の「役儀」(日々)の勤めを重視する訓諭をしばしば藩士に対して示したことが知られています。当時の彦根藩では、財政の窮乏が問題となっており、直興はその要因が藩士の「役儀」に対する意識低下にあるとして、人事制度を整備し、藩士の意識改革を進めました。藩士の由緒・履歴を記した「侍中由緒帳」の編纂はその一環といえます。歩行身分以上の藩士に由緒・功績を書き上げさせ、家の「役儀」を意識させるとともに、目付役(人事担当者)が作成した履歴資料との照合により、厳正な昇進・賞罰が可能となりました。

「由緒帳」の編纂から数年後には、「暮物伺」とよばれる人事考課制度が明確に規定されました。この制度は、毎年の年末(暮)に、歩行身分以上の藩士や武家奉公人の昇進・加増・褒美の支給について、用人役(歩行以下の藩士を支配する役)や目付役が候補者の勤務状況を審査し、家老・藩主に伺ったものです。当館には、「暮物伺」の関係史料が宝暦年間(二七五〜六三)から慶応三年(一八六七)までほぼ毎年の分が伝来しており、彦根

藩における人事考課の実態を知ることができます。

「暮物伺」は厳密な手続きによって実施されました。まず、各役方を統括する藩士が加増・褒美支給の対象となる者を選び、その勤務状況・年数や在職中の功績を書き上げた「願書」を作成して、その根拠資料となる「例書」とともに用人に提出します。用人は先例との突合せを行つた上で、目付役(もしくは評定目付役)と元方勘定奉行(財政担当者)にも審査を依頼し、その結果は「願書」へ付札によつて記されました。用人はそれを基に家老と相談して、候補者の絞り込みを行い、藩主に伺いました。そして、藩主の決裁を得たもののみが加増・褒美の対象となりました。



辰年暮物伺帳(部分)

加増・褒美は、それぞれの職ごとに勤務年数に合わせて支給額が規定されており、例えば、料理人の場合、召抱の年から七年度までは毎年金二百疋、十一年目に二俵、十七年目に金二百疋、二十三年目に

一人扶持、二十八年目に二俵がそれぞれ支給・加増されることになっていました(文化二年(一八〇五))。一方で、勤務年数によらない支給もあり、特に「御用」を多く勤めた者などへ米札金・銀が支給されるがありました。

目付役らは様々な判断材料に基づき、審査を行いました。例えば、天保十四年(一八四三)の料理人富岡弥三右衛門の褒美支給について、「昨年は参勤交代のため、藩主直亮が江戸におり、彦根における「御用」が少なかつたので、今回は見合わせるべき」という評定目付役の付札があり、仕事量の多少を基準としていたことがわかります。また、文化三年(一八〇六)の奥坊主吉川喜斎の加増について、「時節柄、五俵の加増は過分に思われるので、三俵の加増とすべき」という評定目付役の付札があり、藩政の状況を踏まえた判断が行われています。つまり、年数に加え、勤務の内実、当時の状況などを客観的に判断して、支給の可否が決定されていたことがわかります。

「暮物伺」の関係史料から、彦根藩の各役所は、様々な実務を担う歩行身以下

## 刊行物

### ◎ 研究紀要・彦根藩史料叢書 ◎

#### 1 『彦根城博物館研究紀要』第34号

彦根城博物館の学芸員による日頃の調査研究成果を反映した、研究紀要を刊行しました。ぜひお手にとつてご覧ください。

#### ■ 内容

「資料翻刻 井伊直亮筆「買入物留」」

高木文恵・北野智也(当館学芸員)

「資料翻刻 元禄七・八年井伊直興御書付等留」

柴崎謙信・竹内光久(当館学芸員)

■ 体裁 B5判 80ページ

■ 価格 1000円

#### 2 『彦根藩史料叢書侍中由緒帳』第18巻

「侍中由緒帳」(彦根藩井伊家文書)は、彦根藩士各家の履歴を詳細に記した、彦根藩の歴史を知る上で基本となる重要な史料です。本文を活字化して詳しい注を付したほか、各家の解説や系図も掲載しています。本巻には、騎馬徒五十一家を収録しています。

#### ■ 内容

「侍中由緒帳(五二)」

大和田茂太夫家 吉田平太夫家ほか

「侍中由緒帳(五三)」

越石源次郎家、明塚五郎助家ほか

■ 体裁 A5判 424ページ

■ 価格 4600円

\*刊行物は当館ミュージアムショップにてご購入いただけます。郵送での購入をご希望の方は、ミュージアムショップ(0749・22・6100)へお問い合わせください。

# スケジュール 6月～9月

9月	8月	7月	6月
<p>21土 教室 古文書のみかた 中級編③</p> <p>14土 講義会 井伊直興と永源寺南嶺慧詢 —南嶺宛て直興書状を読み解く—</p> <p>7土 教室 古文書のみかた 中級編②</p>	<p>31土 手ヤラリトク 井伊直興と永源寺南嶺慧詢</p> <p>29木 休館</p> <p>24土 教室 古文書のみかた 中級編①</p> <p>11日・祝 講義 シリーズ 「彦根藩士から読み解く彦根の歴史②」 古文書から読み解く彦根の歴史② 「彦根藩士」の履歴書 「侍中由緒帳」を読む</p> <p>10土 教室 古文書のみかた 初級編⑥</p> <p>4日 3日 教室 キッズサマースクール</p>	<p>27土 手ヤラリトク 井伊の赤備え</p> <p>20土 教室 古文書のみかた 初級編⑤</p> <p>7日 教室 古文書のみかた 初級編④</p> <p>6土 講義会 青根九江</p>	<p>23日 教室 古文書のみかた 初級編③</p> <p>22土 手ヤラリトク 青根九江</p> <p>19水 休館</p> <p>15土 講義 シリーズ 「徳川家康からの手紙」 古文書から読み解く彦根の歴史①</p> <p>8土 教室 古文書のみかた 初級編②</p> <p>1土 講義 井伊家伝来の茶壺</p>
<p>企画展 井伊直興と永源寺南嶺慧詢 8/31～9/29</p>	<p>テーマ展 井伊の赤備え —勇猛なる軍団— 7/26～8/28</p>	<p>企画展 青根九江 —京で花開いた彦根の文人画家— 6/21～7/23</p>	<p>テーマ展 茶壺 —武家の美意識— 5/17～6/18</p>
<p>●30 展示替により一部休室</p>	<p>●28, 30 展示替により一部休室</p>	<p>●24, 25 展示替により一部休室</p>	<p>●18, 20 展示替により一部休室</p>

\*「古文書のみかた」は事前申込制です。

## 募集

### ●キッズサマースクール「自分だけのコースターを織ろう！」

経糸と緯糸を組み合わせて作る「織り」について学び、「織り」でコースターをつくります。

#### ■日時

- 4・6年生…8月3日(土)
- ①午前の部(午前10時～12時)
- ②午後の部(午後1時30分～3時30分)
- 1・3年生…8月4日(日)
- ①午前の部(午前10時～12時)
- ②午後の部(午後1時30分～3時30分)

\*午前の部と午後の部は同内容です。どちらか一方への参加となります。

- 場所 当館講堂、展示室
- 講師 当館学芸員
- 定員 各部15名(応募者多数の場合は抽選)
- 参加費 500円(保険料・材料代)



- 対象 彦根市に在住もしくは在学する小学生
- 申込方法 当市ホームページの電子申請サービスにて申込(申込は1人1回まで)
- 申込期間 6月1日(土)～21日(金)
- \*受講の案内は、7月1日(月)以降に通知します。

### ●古文書のみかた 中級編

文字の読み方から文章の読み方など、より実践的に古文書を学ぶための教室「古文書のみかた 中級編」を開催します。

- 開講日時 8月24日(土)、9月7日(土)、21日(土)、10月6日(日)、19日(土)、11月2日(土)の14時～16時
- 場所 当館講堂
- 定員 30名(応募者多数の場合は抽選)
- 対象 過去に開催した教室「古文書のみかた」もしくは現在開催中の「古文書のみかた 初級編」を修了された方、または同程度の古文書解読力を有する方
- 資料代 500円

■申込方法 ①②いずれかの方法でお申し込みください。

- ①彦根市電子申請サービスから申込。
- ②往復はがき(1人1通)の往信の裏面に住所・氏名・電話番号を、返信の宛名面に住所・氏名を明記の上、「古文書のみかた」係に郵送。

のみかた」係に郵送。

- 申込期間 6月1日(土)～21日(金) \*必着
- \*受講の案内は、7月1日(月)以降に通知します。



徳川秀忠書状

